

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520255

研究課題名(和文)近世私家集ならびに私撰集の研究

研究課題名(英文)A Study of Shikashu and Shisenshu in the Edo Period

## 研究代表者

神作 研一(KANSAKU, Kenichi)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：30267893

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：2011年度から2015年度までの4年間にわたった本研究は、江戸時代における私家集と私撰集について、刊本・写本を問わずその全体像(総量)を把握するとともに、未紹介私家集を発掘・翻印紹介し、さらには主要作品の注釈的研究にも道筋をつけるものであった。未紹介私家集としては、美濃岐阜の地下歌人賀島有一(かしま・ゆういち)の『砂長集』を翻印紹介し、注釈的研究としては、香川景樹の家集『桂園一枝』の注釈を整え終えた。

研究成果の概要(英文)：This study is composed of two chapters, one is a grasp the picture of the whole of shikashu and shisenshu in the Edo Period, the other is an introduction of new shikashu and a route on study by commentary. A part of the result is an introduction of Sachoshu by KASHIMA Yuichi and a notes on Keien-issshi by KAGAWA Kageki.

研究分野：人文学

キーワード：近世私家集 近世私撰集

## 1. 研究開始当初の背景

近年の近世和歌研究は、後水尾院・靈元院両歌壇などの主として江戸時代前期の堂上和歌研究が飛躍的に進展し、宮廷歌壇の重要性が確かに認識されるようになった。堂上・地下を問わず、歌人に対する個別の追究も伝記研究を軸としてかなり進んだが、しかし、本来の和歌研究が目指すべき和歌そのものの歴史的評価、すなわち「作品そのものの評価」に関しては、依然として大きな進展が見られないのが現状である。

新しい『新編国歌大観』(角川書店、1992)には、堂上諸家ならびに上方地下歌人の家集・撰集はほとんど未収であるし、今般増補改訂されてCD-ROM版が出た『新編私家集大成』(エムワイ企画、2008)にも、江戸期の私家集は一点たりとも収められてはいない。

本研究は、これらにこぼれた私家集・私撰集の丹念な掘り起こしと、作品の注釈による表現の種々相の炙り出しを通して、近世和歌史・文学史への新たな視座の提供を目論んだものである。

## 2. 研究の目的

研究の期間を四年と設定し、江戸時代における私家集と私撰集を総合的に調査・研究するための柱として、主に次の二点を掲げた。ついては以下、その項目ごとに簡潔に記述する。

### (1) 近世私家集・私撰集伝本書目の編纂

既刊の『私家集伝本書目』(明治書院、1965)と『私撰集伝本書目』(同、1975)をベースとして、近年になって著しく研究が進んだ堂上諸家と上方地下歌人に関する最新の伝本情報を、原本の書誌的調査ならびにデジタル・マイクロ調査に基づいて適宜織り込み、最新の近世私家集・私撰集伝本書目を編纂する。

### (2) 主要作品の注釈的研究

秀歌の抄出と鑑賞(印象批評)によって進められた前代の研究を反省し、作品の全注釈を試みることで、近世和歌の表現の特質と魅力を存分に引き出したいと考える。底本には、最新の伝本調査に基づいて選定された最善本を使用する。取り上げる作品は、文学史的評価の高いものとし、先行する明治以降の注釈の成果も必要に応じて取り込むこととする。

## 3. 研究の方法

目的達成のための具体的な方法は以下の通りで、(1)と(2)を適宜バランスをとりながら進める。

### (1) 近世私家集・私撰集伝本書目の編纂

質量ともに私家集・私撰集の刊本および写本に恵まれた諸機関や文庫において、関係文献の書誌調査・データ収集を行う。また、全国の文献の収集を蓄積している人間文化研究機構国文学研究資料館に所蔵されているマイクロフィルムもしくは紙焼写真本を閲覧調査することで、上記の作業を補完させたい。原本(古典籍)の購入による収集も積極的に進める。

伝本稀少のものに関しては、鋭意情報を収集し、個人蔵資料を調査することも視野に入れる。

### (2) 主要作品の注釈的研究

近世和歌の本格的な注釈的研究はまだそれほど多くはないが、高度な達成を見せた既刊の『近世歌文集』上下(松野陽一ほか校注、岩波・新日本古典文学大系、1997)や『近世和歌集』(久保田啓一校注訳、小学館・新編日本古典文学全集、2002)さらには「和歌文学大系」(明治書院、刊行中)中の近世作品などをお手本として表現の壁に分け入り、精度の高い解釈と鑑賞を追究する。近世和歌の特色とは何かということ、一首一首の注釈を丹念に積み上げてゆくことで明らかにしたい。

## 4. 研究成果

四年間にわたった本研究の柱は二つ、一つは近世私家集・私撰集伝本書目の編纂であり、もう一つは文学史的評価の高い主要作品の注釈的研究であった。その研究成果を、以下、いくつかの項目に分けて摘記する。

### (1) 単著

研究成果の一部として、まず単著(論文集)を刊行した。『近世和歌史の研究』(角川学芸出版、2013、全524頁)である。積年の研究をまとめたものであり、各部のアタマには要点を摘記し、各章の繋がりに配慮し、索引も署名・人名・書肆名・研究者名・和歌初句を完備、さらに英語・中国語・韓国語の要旨を添えるなど、一書としてのまとまりを強く意識した。文体を現在のものに整えたことも明記しておく。

### (2) 辞典の分担執筆

また、『和歌文学大辞典』(和歌文学大辞典編集委員会編、古典ライブラリー刊、2014。\*WEB版もあり)には、「水雲集」や「愚詠草稿」、「和歌古語深秘抄」や「真字百人一首」など、近世の私家集および私撰集に関する多くの項目を執筆、寄稿した(全54項目)。

### (3) 新聞等への寄稿

一般向けの文章としては、多くの関係資料を収載する売立目録(うりたてもくろく)に

関して、金城学院大学図書館（名古屋市守山区）に所蔵されている大量のそれ（全1361冊）を縦覧調査し、新聞に寄稿した。「魅惑の売立目録 落ち穂拾いの悦楽」（「中日新聞」名古屋本社版、2014年10月17日付夕刊）。

#### （4）研究論文

研究論文としては5本を公表した。そのうちの\*印を付した一本は英文で綴った。「上方地下の系譜 梅井一室について」（『国語と国文学』88巻5号、東京大学国語国文学会、2011）、「賀島有一家集『砂長集』 享保美濃和歌史の一資料」（『東海近世』20号、東海近世文学会、2012）、「歌書の刊・印・修 『百人一首像讚抄』の場合」（中野三敏監修・河野実編『詩歌とイメージ 江戸の版本・一枚摺にみる夢』所収、勉誠出版、2013）、「\*An Outline of the History of Waka in the Edo Period」（『国文学研究資料館紀要（文学研究篇）』40号、国文学研究資料館、2014）、「ライデンの田舎版付 田舎版『三十六歌仙』翻印」（国文学研究資料館編『シーボルト日本書籍コレクション 現存書目録と研究』所収、勉誠出版、2014）がそれである。

ほかに、現在入稿中ながらゲラが出ていない「江戸の今西行 似雲覚書」（『西行学』6号、西行学会、2015年刊予定）も執筆したことを付記する。

#### （5）その他（原本の収集など）

伝本書目に関しては、むろん未見の資料も相応に残されているので、今後も調査を粘り強く継続したいが、ひとまずこの四年間でその礎を築くことができた。加藤枝直の『東歌』（享和2年刊）ほか関連する原本（古典籍）を、限られた範囲ではあるが収集することができたことも添記しておきたい。

#### （6）近刊書2点

なお、大部の小沢蘆庵家集『六帖詠藻』（新日吉神宮蘆庵文庫蔵、写47冊）の翻字を果たすことができたことも特記しておく（近く和泉書院より公刊される。蘆庵文庫研究会共編）。

また、注釈としては、香川景樹の家集『桂園一枝』ならびに『桂園一枝拾遺』の原稿をおおむね整え終えた（こちらは近く明治書院より公刊予定。久保田淳氏と共著）。

#### 5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

#### 〔雑誌論文〕（計5件）

神作研一「ライデンの田舎版 付 田舎版『三十六歌仙』翻印」（人間文化研究機構国文学研究資料館編『シーボルト日本書籍コレクション 現存書目録と研究』所

収、勉誠出版、2014、570-579頁）査読なし

神作研一「An Outline of the History of Waka in the Edo Period」（『国文学研究資料館紀要（文学研究篇）』40号、人間文化研究機構国文学研究資料館、2014、5-27頁）査読なし

神作研一「歌書の刊・印・修 『百人一首像讚抄』の場合」（中野三敏監修・河野実編『詩歌とイメージ 江戸の版本・一枚摺にみる夢』所収、勉誠出版、2013、45-68頁）査読なし

神作研一「賀島有一家集『砂長集』 享保美濃和歌史の一資料」（『東海近世』20号、東海近世文学会、2012、60-82頁）査読あり

神作研一「上方地下の系譜 梅井一室について」（『国語と国文学』88巻5号、東京大学国語国文学会、2011、24-34頁）査読あり

#### 〔学会発表〕（計1件）

神作研一「江戸の今西行」（西行学会大会、2012年9月30日、於上智大学（東京都千代田区））

#### 〔図書〕（計1件）

神作研一『近世和歌史の研究』（角川学芸出版、2013、524頁）

#### 〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

#### 〔その他〕

ホームページ等  
ナシ

#### 6．研究組織

(1)研究代表者

神作 研一 (KANSAKU KENICHI)  
国文学研究資料館・研究部・教授  
研究者番号：30267893

(2)研究分担者 ナシ

(3)連携研究者 ナシ